

F★★★★

ホルムアルデヒド放散等級



一液高耐候性水性ふっ素樹脂塗料

アレスアクアフツンⅡ



アレスアクアフツソⅡ

安全性と機能性の両立、さらにデザイン性をも求められ、多様化する住環境。これらのニーズに高い次元で対応する外壁塗料として、時代は溶剤形から水性へシフトしています。

関西ペイントでは、これまでも水性ウレタン樹脂系塗料“アレスアクアレタン”水性アクリルシリコン樹脂塗料“アレスアクアシリコンACⅡ”を市場ニーズに対応する製品として展開しています。

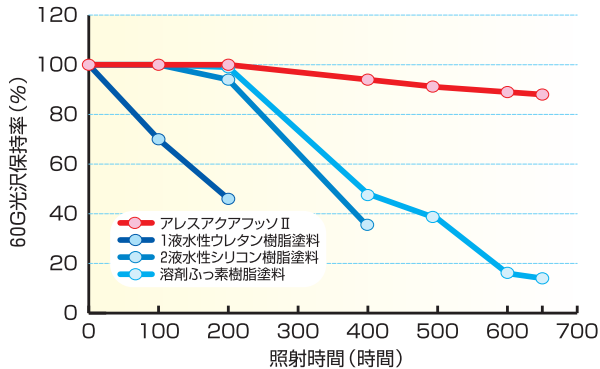
そしてさらなる耐候性を追求した水性ふっ素樹脂塗料“アレスアクアフツソⅡ上塗”を新たにシリーズ展開し、溶剤形ふっ素樹脂塗料に匹敵する機能性を実現しました。

| 荷 姿 |
|---|
| アレスアクアフツソ中塗 : 15kg・4kg |
| アレスアクアフツソⅡ上塗 : 15kg・4kg (設定原色:白、黒、赤さび色、黄土) |

アレスアクアフツ II の特長

1. 抜群の耐候性

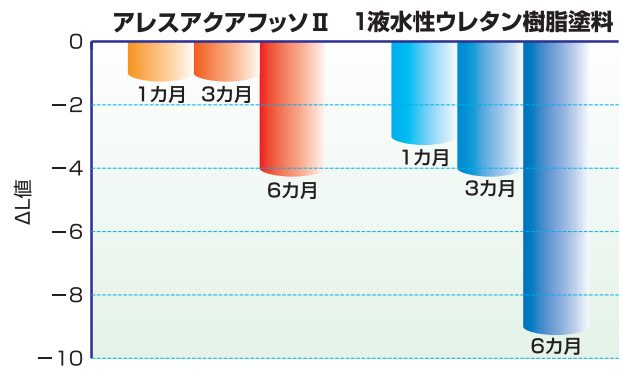
■促進耐候性（メタルハライドランプウェザーオーメーター（注））



(注) 促進性が極めて高く、有効な波長範囲の紫外線に限定した促進耐候性試験法。メタルハライドランプ法での300時間は、キセノン法でのおよそ5000時間に相当。

2. 低汚染性

■白塗料における屋外ばくろ6か月のΔL値

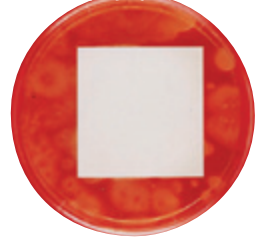


ΔL値:初期と試験後の白さ比較値。グラフが短いほど、汚れが少ない。

3. 防カビ・防藻性

アクリル系水性塗料
(防カビ剤無配合型)

アレスアクアフツ II

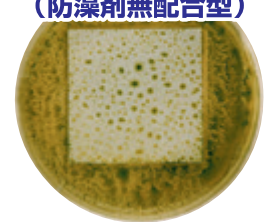
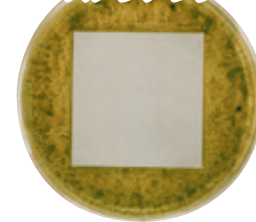


防かび試験方法

JIS Z2911に準拠。
寒天平板培地上に、没水処理した試験片を貼付し、5種類混合孢子懸濁液を噴霧した後、28℃で培養、1週間後での結果。

アレスアクアフツ II

アクリル系水性塗料
(防藻剤無配合型)



防藻試験方法

寒天斜面培地上に、試験片を貼付し、5種類混合藻液を噴霧した後、光照射下(16h 明、8h 暗)、23℃で培養、4週間後での結果。

4. 環境に優しい無鉛

ホルムアルデヒド放散等級



〈塗膜性能〉

| 試験項目 | 試験条件 | 試験結果 | |
|------|--------------------------|--|---------|
| 初期性能 | 光沢 | 60°鏡面光沢度 | 72 |
| | 付着性 | 1mm巾 10×10 ゴバン目 | 100/100 |
| | 耐衝撃性 | φ 1/2 インチ×500g×50cm | 異常なし |
| | 伸び率 (%) | JIS A 6909 に準拠 | 150 |
| | 抗張力 (N/mm ²) | JIS A 6909 に準拠 | 7.0 |
| 耐久性能 | 耐アルカリ性 | 23℃・水酸化カルシウム飽和水溶液 18時間浸漬 | 異常なし |
| | 耐水性 | 23℃・96時間浸漬 | 異常なし |
| | 温冷繰り返しサイクル試験 | 下地調整材:アレスホルダーHG 23℃上水浸漬18時間→-20℃の気中3時間 →50℃の気中3時間 10サイクル | 異常なし |

アレスアクアフツン II

■新設時の仕様

■コンクリート・モルタル系素地

新設

| 工程 | 塗料名・処置 | 所要量 (kg/m ² /回) | 塗装間隔 (23℃) | 希釈率 (%) | 塗装方法 | |
|----|----------------|----------------------------|------------|---------------|--|---------|
| 1 | 素地調整 | | | | エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを 使用して除去し、乾燥した清浄な面とする。 | |
| 2 | 下塗り | エコカチオンシーラー | 0.13 | 2時間以上 7日以内 | 無希釈 | ローラー |
| 3 | 下地調整材 (下塗り) | アレスホルダーHG 上水 | 0.8~1.5 | 8時間以上 7日以内 | 1~5 | 多孔質ローラー |
| 4 | 中塗り | アレスアクアフツン中塗 上水 | 0.12 | 2時間以上 7日以内 | 3~10 | ハケ、ローラー |
| 5 | 上塗り | アレスアクアフツンII上塗 上水 | 0.12 | — | 0~10 | ハケ、ローラー |

注) 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境により、増減することがあります。

■塗替時の仕様

■コンクリート・モルタル系素地

旧塗膜のテクスチャーを活かした塗り替え

| 工程 | 塗料名・処置 | 所要量 (kg/m ² /回) | 塗装間隔 (23℃) | 希釈率 (%) | 塗装方法 | |
|----|----------------|----------------------------|-------------------------------|---------------|--|-------------------------|
| 1 | 素地調整 | | | | クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処置を施す。 劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを 高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。 | |
| 2 | 下地調整材 (下塗り) | アレスホルダーHG 上水 | 0.3~0.5 0.5~0.7 0.5~0.7 | 8時間以上 7日以内 | 5~10 7~10 7~15 | 中毛ローラー リシンガン エアレス |
| 3 | 中塗り | アレスアクアフツン中塗 上水 | 0.12 | 2時間以上 7日以内 | 3~10 | ハケ、ローラー |
| 4 | 上塗り | アレスアクアフツンII上塗 上水 | 0.12 | — | 0~10 | ハケ、ローラー |

注) 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境により、増減することがあります。

※適用できる旧塗膜の種類:各種エマルジョン、リシン、スタッコ、吹き付けタイルなど躯体保護を目的とした仕様です。

■塗替時の仕様

■金属系素地

| 工程 | 塗料名・処置 | 所要量 (kg/m ² /回) | 塗装間隔 (23℃) | 希釈率 (%) | 塗装方法 | |
|----|--------|---|--------------|---------------|--|-----------------|
| 1 | 素地調整 | | | | 劣化している塗膜はケレン工具で除去する。 さびは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、被塗表面を清浄する。 素地露出部は工程2の下塗りをういて補修塗りを行う。 | |
| 2 | 下塗り | スーパーザウルスII (ベース/硬化剤=9/1) 塗料用シンナーA | 0.14 0.17 | 4時間以上 7日以内 | 0~10 0~10 | ハケ、ローラー エアレス |
| 3 | 中塗り | アレスアクアフツン中塗 上水 | 0.12 | 2時間以上 7日以内 | 3~10 | ハケ、ローラー |
| 4 | 上塗り | アレスアクアフツンII上塗 上水 | 0.12 | — | 0~10 | ハケ、ローラー |

注) 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境により、増減することがあります。

■コンクリート・モルタル系素地

旧塗膜のテクスチャーを変えた塗り替え

| 工程 | 塗料名・処置 | 所要量 (kg/m ² /回) | 塗装間隔 (23℃) | 希釈率 (%) | 塗装方法 | |
|----|----------------|----------------------------|------------|---------------|--|---------|
| 1 | 素地調整 | | | | クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処置を施す。 劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを 高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。 | |
| 2 | 下地調整材 (下塗り) | アレスホルダーHG 上水 | 0.8~1.5 | 8時間以上 7日以内 | 1~5 | 多孔質ローラー |
| 3 | 中塗り | アレスアクアフツン中塗 上水 | 0.12 | 2時間以上 7日以内 | 3~10 | ハケ、ローラー |
| 4 | 上塗り | アレスアクアフツンII上塗 上水 | 0.12 | — | 0~10 | ハケ、ローラー |

注) 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境により、増減することがあります。

※適用できる旧塗膜の種類:各種エマルジョン、リシン、スタッコ、吹き付けタイルなど躯体保護を目的とした仕様です。

■施工上の注意事項

- 1) 気温5℃以下、湿度80%以上、また強風、降雨、降雪が予想される場合は塗装を中止してください。
- 2) 素地のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製CH-2)、または5%以下(ケツ科学社製HI-5000シリーズ:コンクリートレンジ)の条件で塗装してください。
- 3) 塗り替えの場合、旧塗膜の劣化が著しいときは、サンダー・ワイヤーブラシ等で弱い弱な塗膜を除去し高圧水洗を行ったのち、1日乾燥後塗装してください。
- 4) 使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は長く放置されると容器内で分離(顔料沈降)することがありますので、十分攪拌の上、ご使用ください。
- 5) 押出成型板、GRC板などの緻密な素材には、溶剤系エポキシシーラー(マルチタイルコンクリートプライマー-EPO、浸透形Mシーラー、アレスダイナミックシーラーマイルド)をご使用ください。
- 6) 軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型業業サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なると、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きで簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗りに「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」を塗装してください。
- 7) ハケ塗りや補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上がり肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますのでご注意ください。
- 8) 雨が直接かからない面や笠木などの水切りが施されていない部位など、建物の形状により低汚染性が十分に発揮できない場合があります。
- 9) 合成皮革、ゴムパッキン、塩化ビニル製品などと塗膜の接触は避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起る場合があります。
- 10) シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、フレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シープラ」または「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
- 11) 塗料用具などの洗浄の際、上水で落ちにくい場合はラッカーシンナーを用いてください。
- 12) 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控は必ずおとさき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。

■ご使用上の注意事項

- 下記の注意事項を守ってください。
詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 取扱い** 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
火災が発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
本来の目的以外に使用しないこと。
指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
缶の取っ手を持って振り回したり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
取り扱後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
本品に入った場合:直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合は:直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸入した場合:** 空気の清浄な場所まで安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 保管** 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 廃棄** 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
- 施工後の安全** 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL(0133)64-2424 FAX(0133)64-5757
東北 TEL(022)287-2721 FAX(022)288-7073
北関東 TEL(028)637-8200 FAX(028)637-8223

東京 TEL(03)5711-8905 FAX(03)5711-8935
中部 TEL(052)262-0921 FAX(052)262-0981
大阪 TEL(06)6203-5701 FAX(06)6203-5603

中国 TEL(082)262-7101 FAX(082)264-3285
四国 TEL(0877)24-5484 FAX(0877)24-4950
九州 TEL(092)411-9901 FAX(092)441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご諒承ください。

(22年08月15日PKO) カタログNo.526